

(仮称) 姫路天然ガス発電所新設計画

環境影響評価準備書

補 足 説 明 資 料

令和元年 5 月

姫路天然ガス発電株式会社

目次

1. 方法書からの主な事業計画の変更点について	3
-----------------------------------	---

1. 方法書からの主な事業計画の変更点について

方法書からの主な事業計画の変更内容は表1のとおりです。

表1 主な変更点

項目	方法書	準備書	理由
出力 (基数)	約180万kW (40万kW級又は 50万kW級で計4基)	186.78万kW (62.26万kW×3基)	計画の熟度が上がり、最新鋭の機種を選定したため
熱効率	BATの(A)* (約58% (低位発熱量基準)) 以上 (燃焼温度1,500℃級以上)	約64% (低位発熱量基準) (燃焼温度1,650℃級)	方法書手続き以降、高効率の機種を採用することとしたため
設備利用率	80%	90%	計画の熟度が上がり、高効率の機種を採用することを踏まえて、設備利用率を見直したため
一般排水の 排水先	排水処理設備で処理後 既設排水口より海域	姫路市公共下水道	既存の公共インフラを有効活用することとしたため
対象事業 実施区域	—	下水配管・工業用水 配管敷設経路の追加	下水配管・工業用水配管敷設工事は、地方公共団体ではなく当社が実施する計画としたため
煙突高さ	80m	140m	窒素酸化物の影響を低減するとともに、建物ダウンウォッシュの発生を回避する煙突高さとしたため
復水器 冷却方式	冷却塔による淡水 循環冷却方式、及び 空冷式熱交換器による 淡水循環冷却方式	冷却塔による 淡水循環冷却方式	方法書手続き以降の検討の結果、空冷式熱交換器を採用しないこととしたため(騒音等の影響について回避)
運転開始 時期 (予定)	一期工事初号機： 2022年度 二期工事初号機： 2026年度	1号機（一期工事）： 2026年1月 2号機（一期工事）： 2026年 5月 3号機（二期工事）： 2029年10月	本発電所に必要な他事業者が行う工事の工程を精査したため
主要設備の 配置計画	図1	図2	方法書手続き以降の変更点を踏まえ、設備のレイアウトを見直したため
防音壁	—	全長約1,336m 高さ40m（図2）	発電所の運転による騒音の影響を低減するため

※「東京電力の火力電源入札に関する関係局長級会議取りまとめ」（平成25年経済産業省・環境省）において、事業者が利用可能な最良の技術（BAT=Best Available Technology）の採用を検討する際に参考となるようなBAT表が公表されており、同技術の一つに『(A)経済性・信頼性において問題なく商用プラントとして既に運転開始をしている最新鋭の発電技術（平成26年4月時点）』と定義されている。

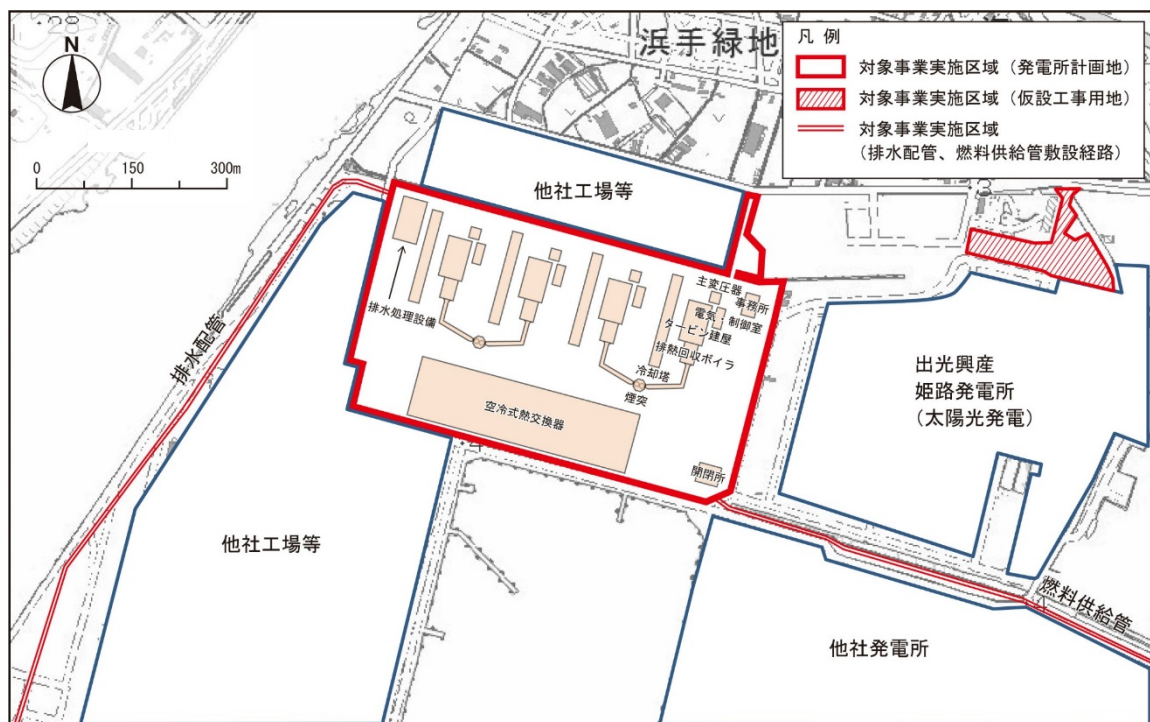


図1 発電所の配置計画の概要（方法書）

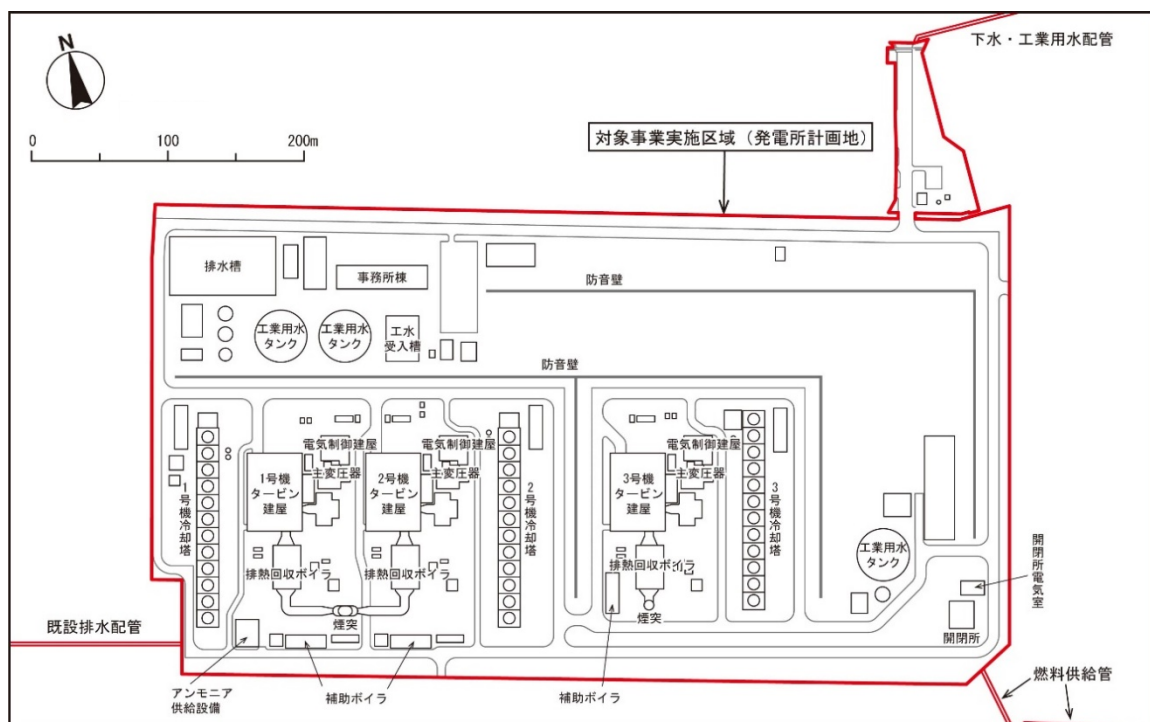


図2 発電所の配置計画の概要（主要設備）（準備書）